



▲土山地域



▲水口地域



▲信楽地域



▲甲賀地域



▲甲南地域

市内での心無い人によるポイ捨てや不法投棄は、依然として後を絶ちません。観光のまち、そして深山から流れる清らかな水、自然豊かな美しいまち甲賀市を「ごみのないまちとして守りたい」という思いは、誰もの願いです。本紙5月15日号でも市内のごみ事情を紹介したところですが、この号では、先日開催したごみゼロ大作戦の結果をお知らせします。

ごみを捨てる人に言いたい

ごみ拾いに参加した皆さんから

たくさんのごみが集まってよかったと素直に思っているのか……ごみの山を目の前に複雑な思いがしたごみゼロ大作戦。参加者の皆さんは、どう感じられたのでしょうか。作業を終えての感想を子どもたちを中心にお聞きしました。

水口町・甲南町剣道スポーツ少年団の友達と一緒に参加してくれた貴生川小学校5年

和田 夏佳さん(10歳)

「このまま進むと今住んでいるまちがごみだらけになってしまうから、絶対にもうごみを捨てないでほしいです。」

緑の少年団の活動で参加してくれた鮎河小学校4年

谷川 琢哉さん(9歳)

「あまりのゴミの量にびっくりし、腹が立ちました。大切なみんなの自然を汚さないでほしいです。」



毎年参加されている甲南高等学校弓道部女子の皆さん

「今年は思ったよりきれいですが、ペットボトルや燃えるごみが多かったです。ごみを捨てる人は、拾う人の気持ちになってほしいです。」

職場での取り組みで毎年参加されている教職員

井野 勝行さん(41歳)

「毎年こうして多くのごみが集まり、きれいになるのは気持ちがいいものですが、呼びかけだけでは、不法投棄は減りません。ごみを捨てたくなるような政策を考えていかなければならないと思います。」

お父さんと妹2人と一緒に参加してくれた雲井小学校6年

黄瀬 沙誉さん(11歳)

「家でも家族でごみは分けているし、学校でもリサイクルの勉強をしています。まわりにごみがいっぱいあると、遊びに行っても気持ちよく遊べません。絶対にごみのポイ捨てはやめてほしいです。」



5地域で766人が参加

ごみゼロ大作戦は、市民の皆さんでごみを拾い、ポイ捨てについて考えようと、毎年5月30日(ごみゼロの日)前後に開催しています。今年も、5月27日(日)の午前8時から10時にかけて、水口スポーツの森、青土ダム・リップルチャチャバス停、大原ダムキャンプ場、竜法師公民館、信楽運動公園の5か所周辺で展開され、地域、地元企業、各種団体などから766人もの方が、散乱するごみを集めてくださいました。

集まったごみは1.8トン

▼なかには驚くようなごみも▲

当日、収集したごみの量は、わずか2時間の作業にもかかわらず、カン、ビン、可燃ごみ、不燃ごみを合わせ1.8トンにもなりました。集まったごみのなかには、洗濯機、テレビ、電子レンジや大量のタイヤなど驚くようなものも。山林や道路脇など人目につきにくい場所には、こうした大型ごみが目立ちました。

皆さん一人ひとりが監視役に

ごみが不法投棄された場所には、さらにごみが捨てられやすくなる傾向があります。不法投棄は様々な場所で行われるため、皆さん一人ひとりが監視役となっていくことが効果的です。

不法投棄を目撃・発見されたときは、生活環境課(TEL65-0690)までご連絡ください。

子どもたちの模範となる行動を

今回のごみゼロ大作戦には、大勢の子どもたちも参加してくれました。多くは大人が捨てたと思われるごみの山を見て子どもたちからは憤りの声が聞かれました。子どもたちは、大人の姿を見て成長します。私たち大人は、地域で家庭で、子どもたちの模範となるような行動をとりたいたいです。「自分だけなら」「少しくらいなら」という安易な気持ちでまちや自然を汚すということを知らなければ、美しい甲賀市にはなりません。